

ありがとう
since
1964
60周年

 サンコーテクノ株式会社

2023年3月期 決算説明会

証券コード: 3435

2023年6月1日



- 1 2023年3月期 実績
- 2 2024年3月期 計画
- 3 中期経営計画（～2023年度）達成状況
- 4 次期中計に向けて

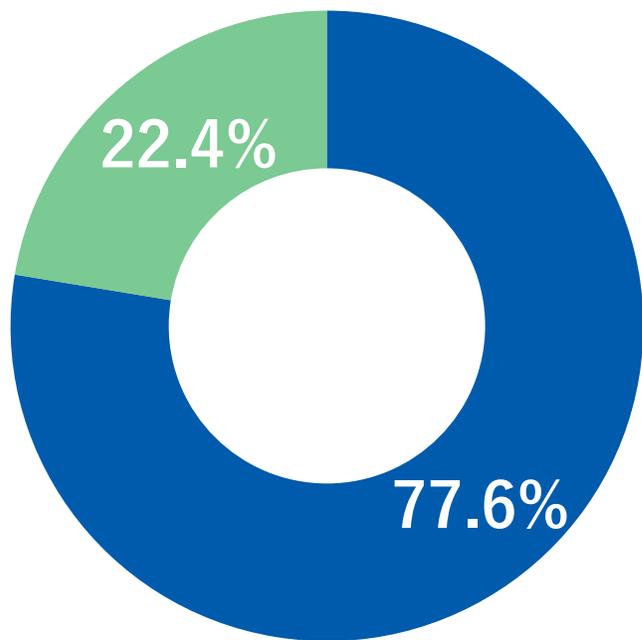
2023年3月期実績報告

決算概況

- 建設市場はインフラ補修・保全需要を中心に底堅く推移
- アルコール検知器関連の特需を取り込んだほか、完成工事高が好調に推移
- 販管費が想定を下回ったほか、価格改定のスムーズな移行が増益に寄与

(百万円)	2022年3月期 実績	2023年3月期 期初予想	2023年3月期 実績	前年同期比		対予想比	
売上高	18,735	19,500	20,604	+ 1,868	+ 10.0%	+ 1,104	+ 5.7%
営業利益	1,716	1,600	1,978	+ 262	+ 15.3%	+ 378	+ 23.7%
営業利益率 (%)	9.2%	8.2%	9.6%	+ 0.4pt	—	+ 1.4pt	—
経常利益	1,697	1,560	1,948	+ 250	+ 14.8%	+ 388	+ 24.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,071	1,050	1,395	+ 324	+ 30.2%	+ 345	+ 33.0%

決算概況 事業セグメント構成（2023年3月期実績）



売上高
20,604百万円

ファスニング事業（売上高：15,988百万円）

あと施工アンカー・ドリルビットの開発・製造・販売
土木建築関連（耐震工事）・太陽光関連の工事管理 等



機能材事業（売上高：4,615百万円）

電動油圧工具関連およびFRPシート関連、電子プリント基板
や各種測定器および包装・物流機器の製造・販売 等



■中期経営計画で掲げる「地域密着型拠点戦略」が着実に進捗しています

- ①更なる業務の拡大と効率化を図るため、大阪支社を新築移転し、2022年11月より業務を開始しました。（新住所：大阪府東大阪市長田2丁目12番15号）



▲大阪支社

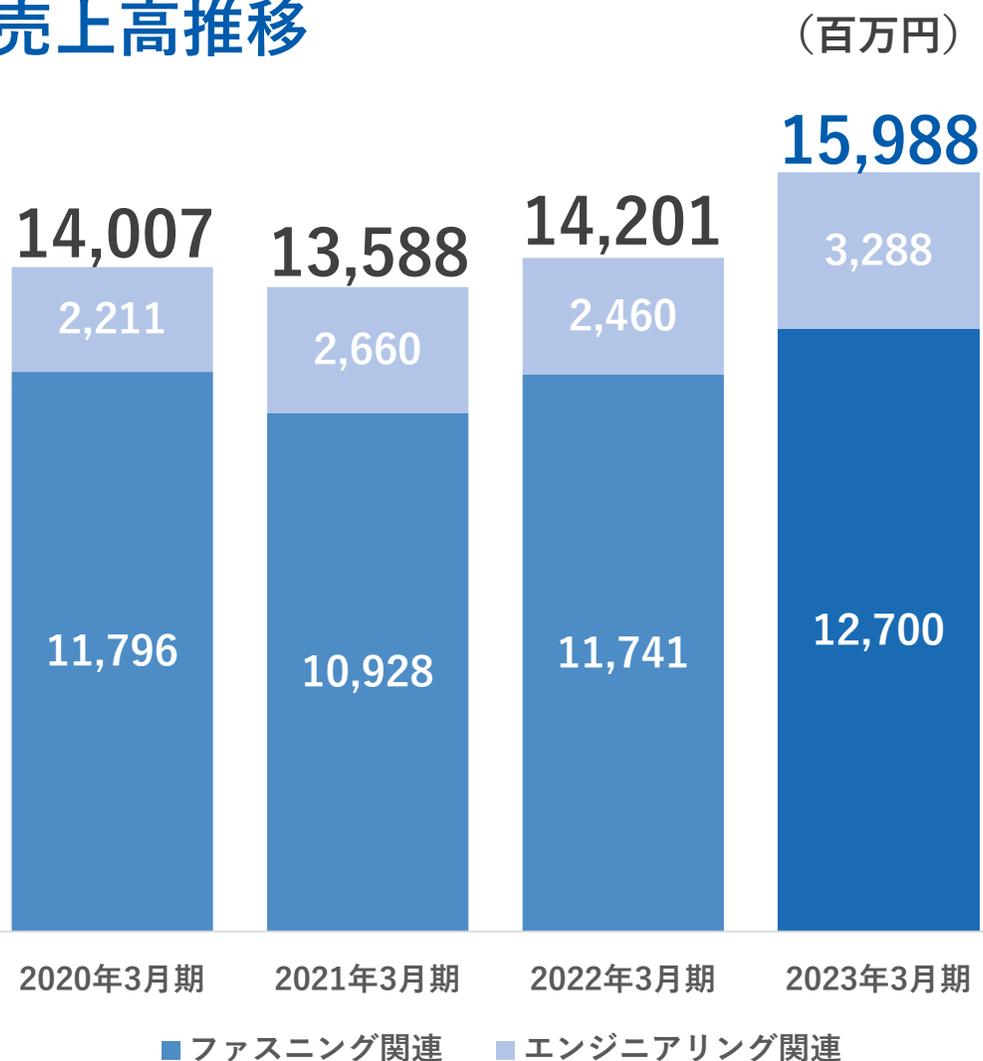
広島支店▶



- ②主に販売を担う広島営業所と工事を担う広島事業所を統合して新たに広島支店を設立し、2022年6月より業務を開始しました。（新住所：広島県広島市佐伯区石内北1丁目4番30号）

ファスニング事業（2023年3月期）

売上高推移



	実績（百万円）	前年同期比
売上高	15,988	+12.6%
セグメント利益	2,267	+12.1%

■ ファスニング関連

- ・ 鋼材価格の高騰・為替レートの変動に伴い、4月および11月と、2度にわたるに価格改定を実施
- ・ 前期末の買込み需要の反動減および、工期遅れ等が影響し、国内における販売数量は微減
- ・ 海外販売が回復したことに加え、外壁補修用が好調に推移

■ エンジニアリング関連

- ・ インフラメンテナンス需要の下支えがあり、土木工事の受注が好調に推移
- ・ 好調な受注に加え、前期受注分が完工し大幅増収

■ファスニング関連：インフラ分野で活用が期待される 2 アイテムがNETIS登録

メタルアジャスターシリーズ

新技術情報提供システム
NETIS
登録番号：KT-220131-A

【NETIS 登録】
MUC-D, SMUC

MUS-HLD,
SMUS-HL

SFMUS

スマートタイプ

フェイルセーフタイプ

フェイルセーフアジャスター®

SFCN タイプ

新技術情報提供システム
NETIS
登録番号：KT-220171-A

落下防止対策
さらなる安全の追求

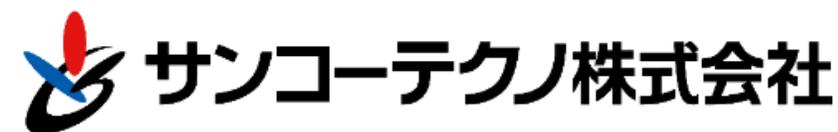
■ファスニング関連： ハイウェイテクノフェア2022 に出展

2022年11月、東京ビッグサイトでおこなわれた高速道路の建設管理技術に焦点をあてた展示会「ハイウェイテクノフェア」に出展しました。



■ファスニング関連：コンクリート水路補修材の新たな現場付着試験方法を開発

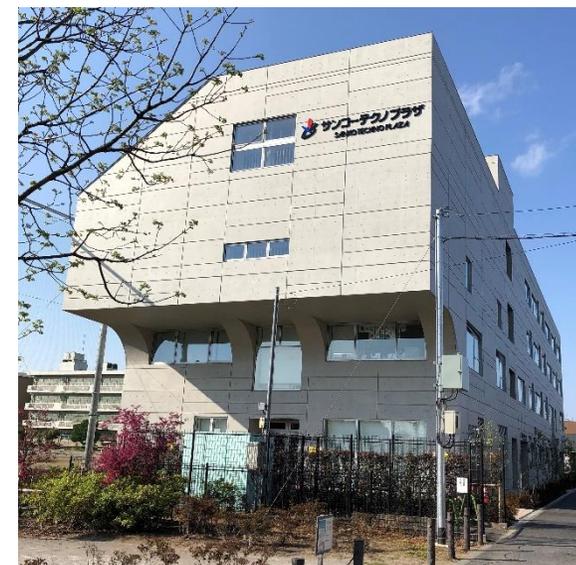
農研機構、鳥取大学および当社が共同で、コンクリート水路の補修材の付着性を調べるための新たな試験方法を開発しました。



■エンジニアリング関連：橋本組及び当社のJV案件が完工

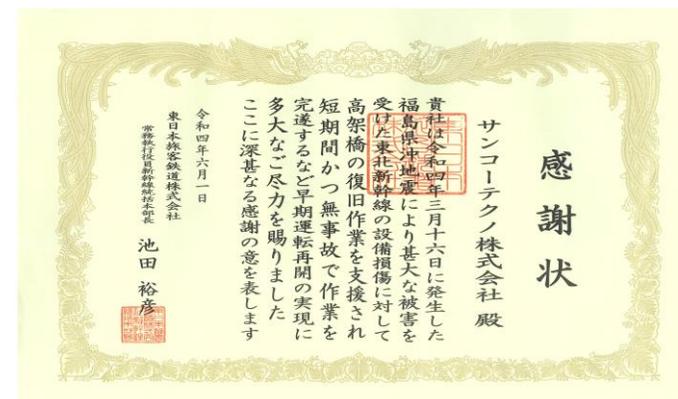
流山市立南流山地域図書館・流山市南流山児童センターが完工し、2022年12月より、地域の皆様にご利用いただいています。

現在は、「サンコーテクノプラザ」（愛称）として、皆様に親しんでいただいています。



■エンジニアリング関連：東日本旅客鉄道株式会社より感謝状を受領

2022年3月16日に発生した福島県沖地震で被災した東北新幹線の高架橋復旧作業において、新幹線の早期開通に貢献した旨、ご評価をいただきました。



ファスニング事業 トピックス

■ファスニング関連：新光ナイロン株式会社がグループの一員になりました

(2023年4月6日)

企業名	新光ナイロン株式会社
URL	https://shinko-nylon.co.jp/
所在地	本社：大阪府箕面市瀬川五丁目4番25号 埼玉工場：埼玉県加須市道地1303-4 兵庫工場：兵庫県赤穂郡上郡町山野里字新田333-2
創立	1958年7月2日
事業内容	土木用暗渠排水材等の合成樹脂立体網状構造体の製造・販売
従業員数	16名
資本金	96百万円
年商	288百万円



プラスチック立体網状成形品

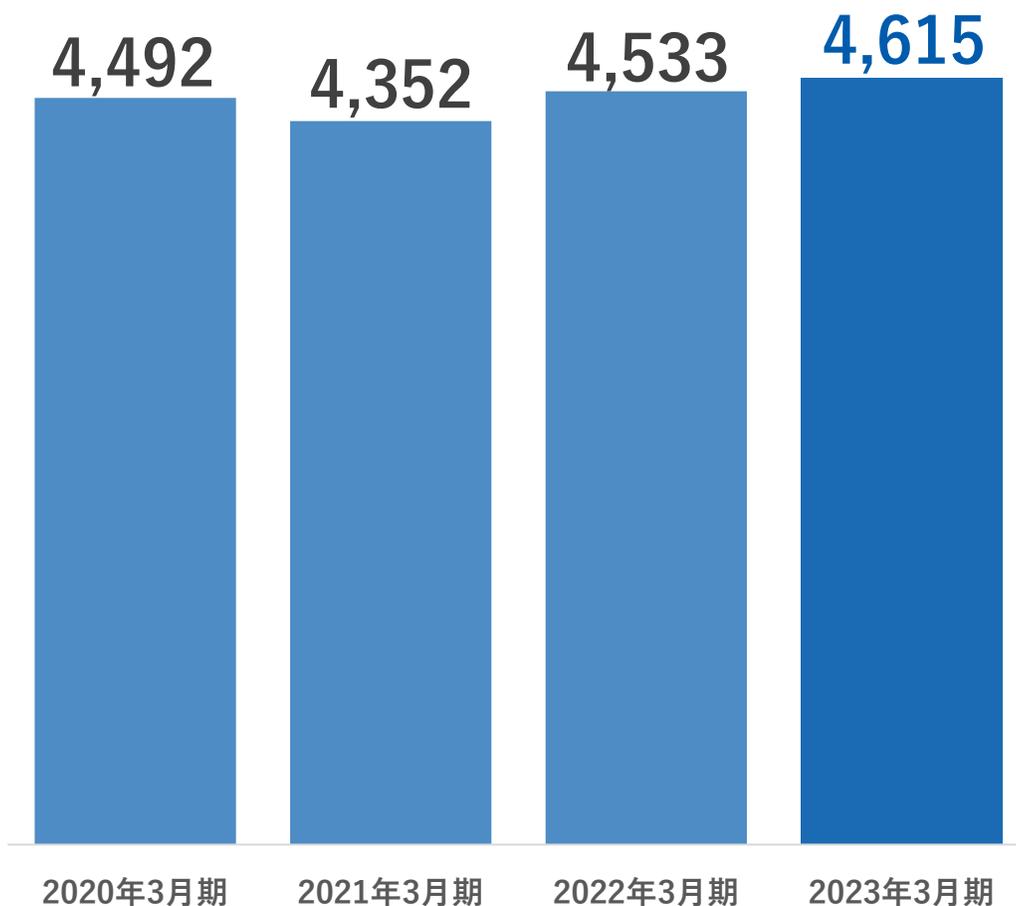
ヘチマロン



土木用のほか、汚水浄化用として活用されています。また、ポリエチレン系の樹脂を使用した「ヘチマロンPE」は災害備蓄用のベットにも採用されています。

売上高推移

(百万円)



	実績 (百万円)	前年同期比
売上高	4,615	+ 1.8%
セグメント利益	625	+ 14.3%

■ 電動油圧工具関連

- ・材料価格の高騰等により着工できない現場が発生したこと
から国内販売は微減となったが、海外販売が大幅に回復

■ センサー関連

- ・白ナンバー事業者におけるアルコール検知器設置の義務化に伴う特需により、売上が大幅増加
- ・電子基板関連の設備投資は回復基調で推移。また、半導体及び電子部品の納期遅延は徐々に解消に向かっている
- ・電子基板関連で、グループ間取引が増え、利益面に寄与

■ FRPシート関連

- ・e-シート関連商材のインフラ向けが低調に推移

■ 包装・物流機器関連

- ・大型機械の納入が翌期へずれ込んだこと等から大幅減収

■ 電動油圧工具関連：2機種を新発売

ハイパワーブラシレスモーターを搭載し太径鉄筋（D51）が切断可能な36VコードレスチップソーカッターDRC-5136BLHを2022年5月に、人気機種DFC-20Aをさらに進化させたツライチカッターDFC-20FLを2022年7月に、株式会社IKKより新発売しました。



▲DRC-5136BLH



▲DFC-20FL

■ 包装・物流機器関連：「ROBOT S7」販売開始

ロボパック社（イタリア）が、シリーズ第7世代となる新しい自走式パレットストレッチ包装機「ROBOT S7」の販売を開始したことに伴い当社グループ（成光産業株式会社）においては、2022年7月より同製品の取扱いを開始しました。



■包装・物流機器関連：紙製ブリスターパックシステムのPRを本格始動

プラスチック不使用の100%紙製ブリスター包装を可能とする『HSU 35b』（イリッヒ社製）を2022年10月に開催された「TOKYO PACK 2022（東京国際包装展）」にて展示しました。また、全自動で紙製ブリスター包装を可能とする上位機種『HSU 650』（同社製）の取扱いを開始しました。



■センサー関連：株式会社WDSがグループの一員になりました（2023年2月22日）

企業名	株式会社WDS
URL	https://www.wd-s.com/
所在地	東京都荒川区西日暮里二丁目22番1号
創立	2014年8月7日
事業内容	無線機器をはじめとするIoTデバイス機器の開発・販売 AIエッジ顔認証製品の開発・販売
従業員数	9名
資本金	55百万円
年商	120百万円

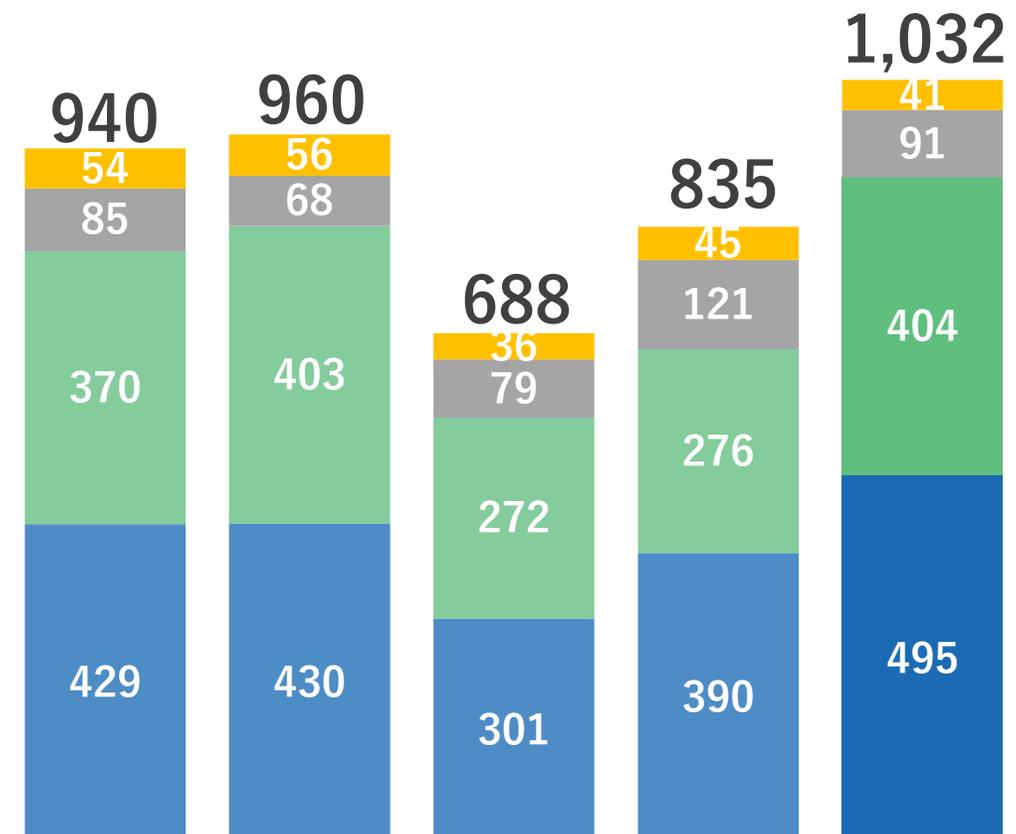


■センサー関連：株式会社光洋がグループの一員になりました（2023年4月25日）

企業名	株式会社光洋
URL	https://www.koyoinc.co.jp/
所在地	本社：東京都台東区東上野2-12-8芳屋ビル4階 福島工場：福島県須賀川市小倉字向山108
創立	1970年5月12日
事業内容	端末機用入力キーボード・メンブレンスイッチ等の設計・開発・製造 各種フィルム材料の加工・印刷およびプリント基板の設計・製造 プラスチック成形部品・板金部品・銘板の設計・製造
従業員数	35名
資本金	40百万円
年商	610百万円



地域別海外売上高推移 (百万円)



2019年3月期 2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期

■ アジア ■ 北米 ■ 欧州 ■ その他

通期10億円[※]の売上目標を達成

欧州における実績が伸び悩んだ一方、アジア・北米における売上が大幅に回復し、全体として、堅調に推移

新型コロナウイルスや国際情勢に起因した物流停滞等に注視しつつ、さらなる販売拡大を目指す

貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

連結貸借対照表	2022年3月期	2023年3月期	増減額
現金及び預金	2,428	2,358	△70
棚卸資産	4,549	5,921	+1,372
その他の流動資産	4,827	4,815	△12
有形固定資産	6,248	6,512	+264
その他の固定資産	1,230	1,300	+70
総資産	19,283	20,908	+1,625
負債	4,773	5,038	+264
純資産	14,510	15,870	+1,360

単位：百万円

連結キャッシュ・フロー	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,317	308
投資活動によるキャッシュ・フロー	△833	△519
財務活動によるキャッシュ・フロー	△523	116
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	58
現金及び現金同等物の期末残高	2,335	2,299
フリーキャッシュ・フロー	484	△211

■ 主な増減理由

- ・ 棚卸資産
商品及び製品、原材料及び貯蔵品の増加
- ・ 有形固定資産
広島県・大阪府に販売拠点を建設
- ・ 負債
短期借入金及び長期借入金の増加
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フロー
販売拠点の建設に伴う支出

2024年3月期通期計画

2024年3月期 通期計画

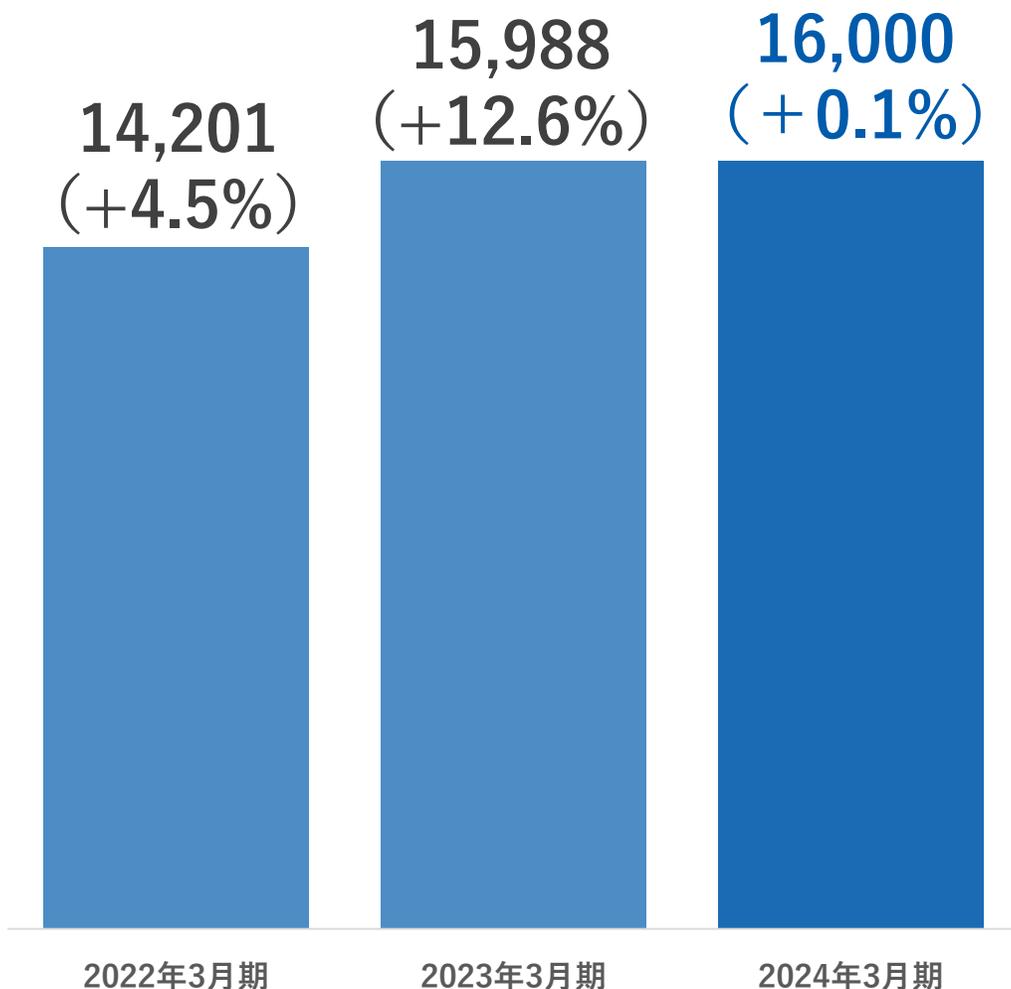
- インフラ・土木向けの需要は堅調な一方で、原材料の高騰や物流停滞等に注視が必要
- アルコール検知器関連における需要は、高止まりの状態を想定
- 物価高等にともなう各種経費増を見込む

(百万円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 計画	前年同期比	
売上高	20,604	21,000	+395	+1.9%
営業利益	1,978	1,950	△28	△1.4%
経常利益	1,948	1,950	+1	+0.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,395	1,360	△35	△2.6%

売上高推移

(百万円)

2024年3月期目標：16,000百万円



■ ファスニング関連

- ・引き続き、インフラ土木向けの需要は堅調に推移する見込み
- ・鋼材価格高騰や為替レートの変動に対しては、状況に応じて、適切に対処していく方針

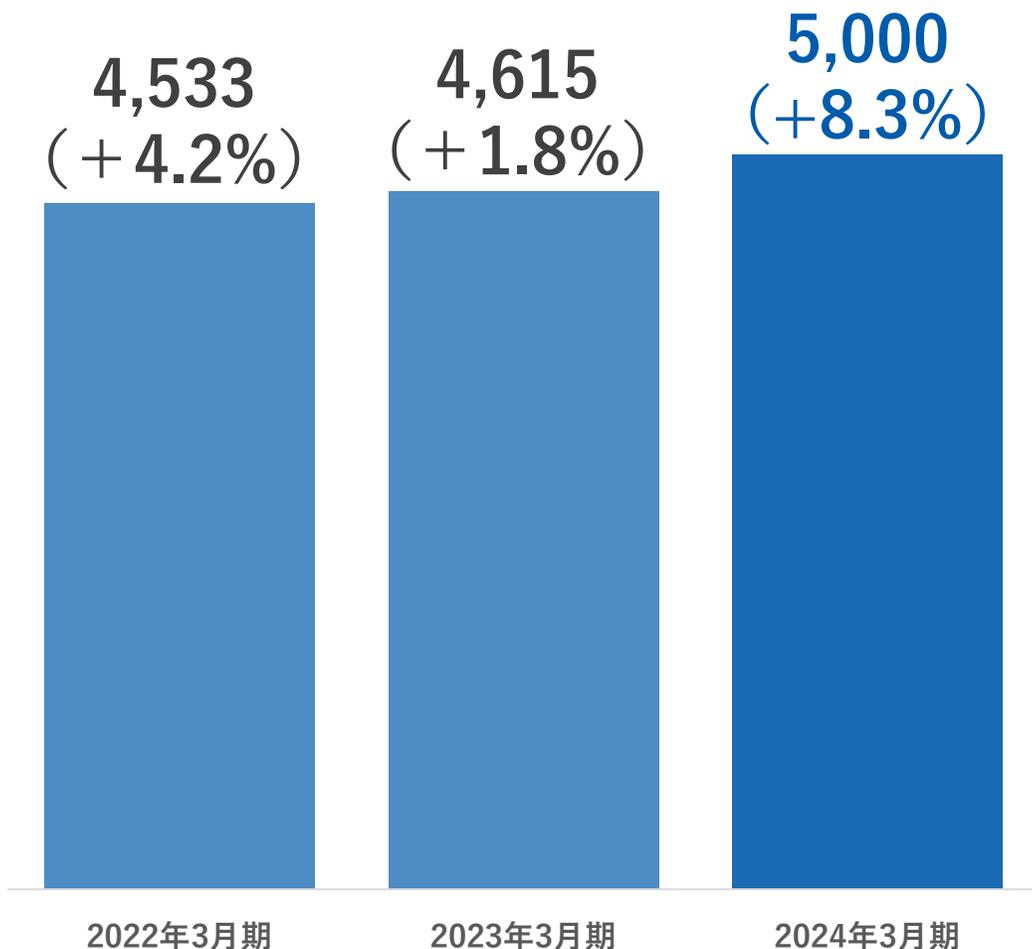
■ エンジニアリング関連

- ・土木工事の安定した受注とインフラメンテナンスの下支えにより堅調に推移する見込み
- ・設計検証の影響や材料価格の高騰による着工遅れの懸念が残るが適切に対処できると想定
- ・完成工事高の前期水準は、下回る見通し

売上高推移

(百万円)

2024年3月期目標：5,000百万円



■ 電動油圧工具関連

- ・国内販売は弱含みで推移するが、堅調な海外販売にけん引され、おおむね前年並みを見込む

■ センサー関連

- ・アルコール検知器関連は、設置義務化を背景とした旺盛な需要が継続する見込み
- ・電子基板関連の受注および生産は堅調な推移だが、半導体・電子部品不足の影響が残る（年内の正常化を想定）

■ FRPシート関連

- ・インフラ予算再編の影響も懸念されるが回復を見込む

■ 包装・物流機器関連

- ・プラスチック不使用の100%紙製ブリスター包装を可能とする機器など、PRを推進。物流2024年問題を背景に需要の回復を見込む

配当	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 (予想)
1株当たり 年間配当金 (円)	26.0	26.0	28.0	30.0	33.0 (※)
配当性向 (%)	21.0	20.3	20.6	16.9	19.1

(※) 2024年3月期 (予想) 33円には、創立60周年記念配当金1円を含んでおります。

配当方針

必要な内部留保は確保しつつ、安定的・継続的な増配を目指す

PBR改善策

既存事業の更なる成長およびM&A戦略の推進により、資本効率を意識した経営を実行、安定増配とIR活動の推進を通じて、PBR1.0倍以上の早期回復を目指す

株主優待

当社株式を1単位（100株）以上保有の株主様に一律、500円分のQUOカード（クオ・カード）を贈呈



中期経営計画（～2023年度）達成状況

中期経営計画（2021～2023年度）

S.T.G Vision 2023

私たちは、独自の技術とサービスに磨きをかけ、
安全・安心の価値を追究して、社会に役立つ集団となります

2023年度経営計画

売上高 **200億円以上** 売上高経常利益率 **8%以上**

※設備投資 **15億円程度**（M&Aを除く）

ファスニング事業

2023年度売上計画：145億円以上 ⇒2022年度 超過達成

①ファスニング関連

製品・技術・サービスをバランスよく提供する「ソリューション営業」
地域密着型拠点戦略と事業本部のサポート体制で「顧客接点」を最大化

②エンジニアリング関連

「現場力」のさらなる向上へ
調査 → 提案（設計） → 工事受注までの流れを構築
協力業者との強固な信頼関係を構築

機能材事業

2023年度売上計画：55億円以上 ⇒2023年度 50億円見込

①電動油圧工具関連

国内拠点の販売網を活用した製品のさらなるPR活動
北米を中心とした海外売上高の回復

②アルコール検知器関連

安全・安心（健康）をキーワードとした新規サービスの追究
メンテナンス事業拡大とコト売りの「核」へ成長

③物流・包装機器関連

メンテナンス力の向上とコト売りへのシフト

④電子基板関連

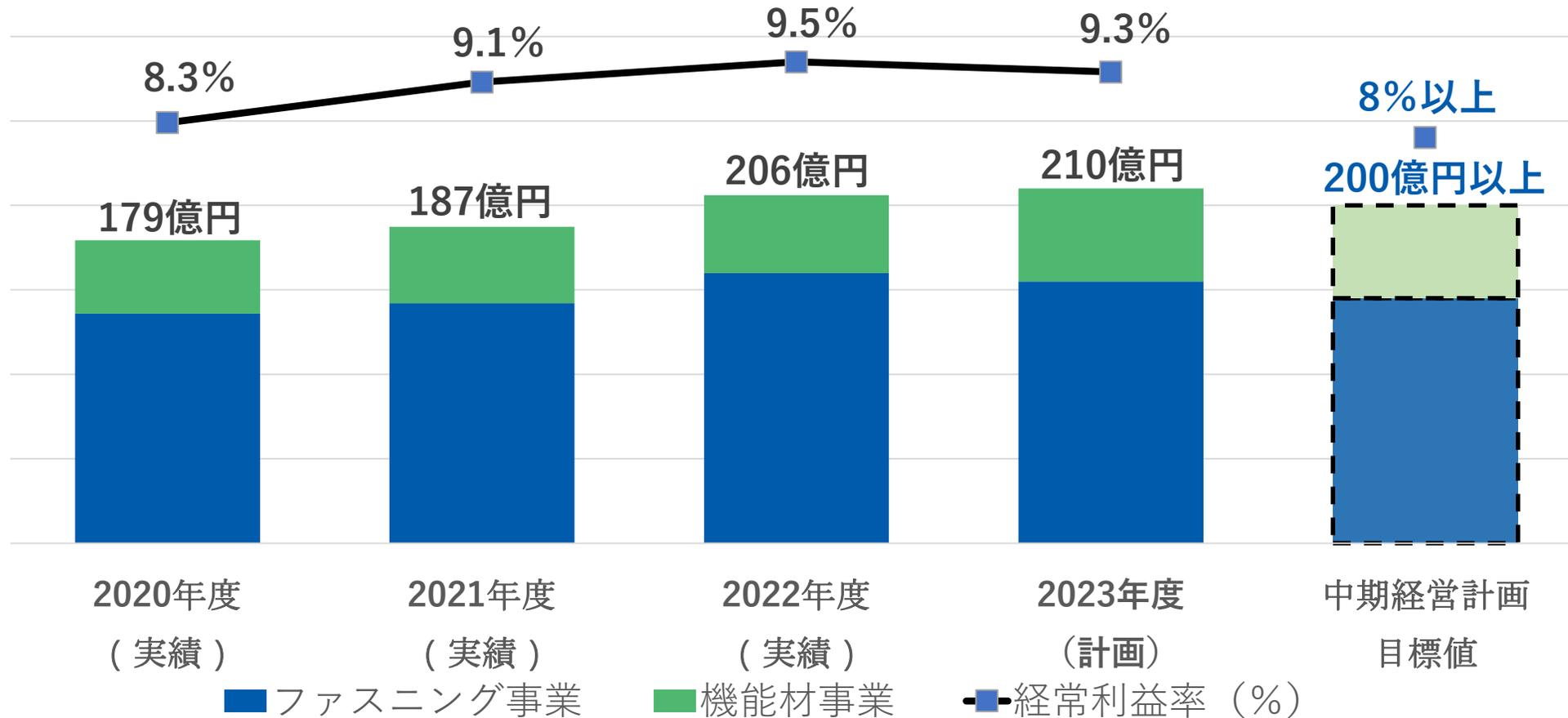
グループ会社間のシナジーの追究

⑤FRPシート関連

歩道橋補修工法の全国展開

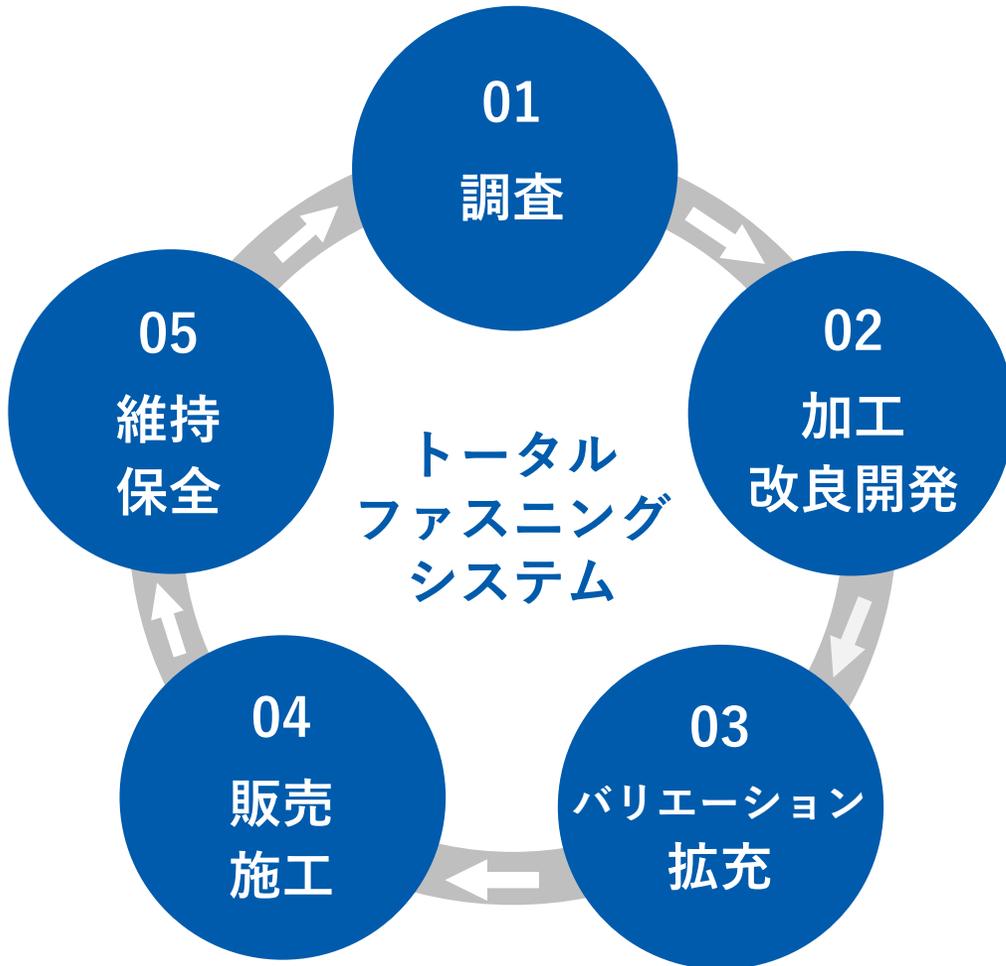
中期経営計画（2021-2023年度）の進捗

売上高および経常利益率の推移



2023年度（最終年）：中期経営計画 計画値超過達成を見込む

中期経営計画における重点施策（土木分野の強化）



01 調査
IT技術を活用した調査で作業時間の短縮



02 加工・改良開発
日本メカニックと営業開発部による迅速な顧客対応



03 バリエーション拡充
製品バリエーションの拡充により使用シーンの拡大を図る



04 販売：全国の当社グループ拠点（29拠点）と販売代理店（5000社以上）から成る販売網の活用
施工：作業効率を高める施工ツールの提供と施工管理による情報収集

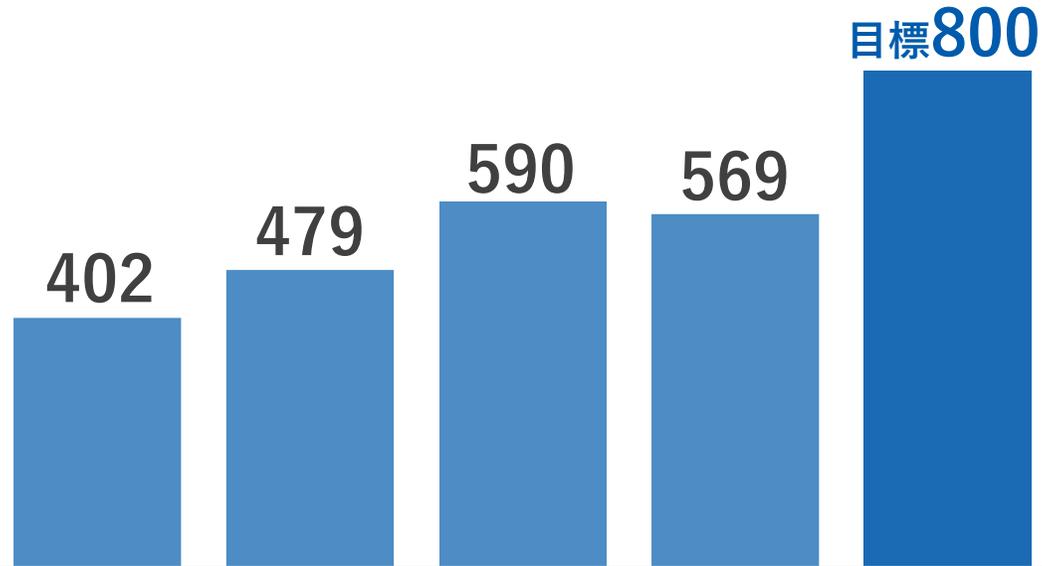
05 維持・保全
製品販売・施工後のアフターサポートの充実化により顧客満足度の向上



土木向けのトータルファスニングシステムを構築し、付加価値の向上を図る

中期経営計画における重点施策（土木分野の強化）

土木向け製品の販売実績（百万円）



2020年3月期 2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期



サイズミックエコフィラー



メタルアンダーカットアンカー



メタルセーフアンカー



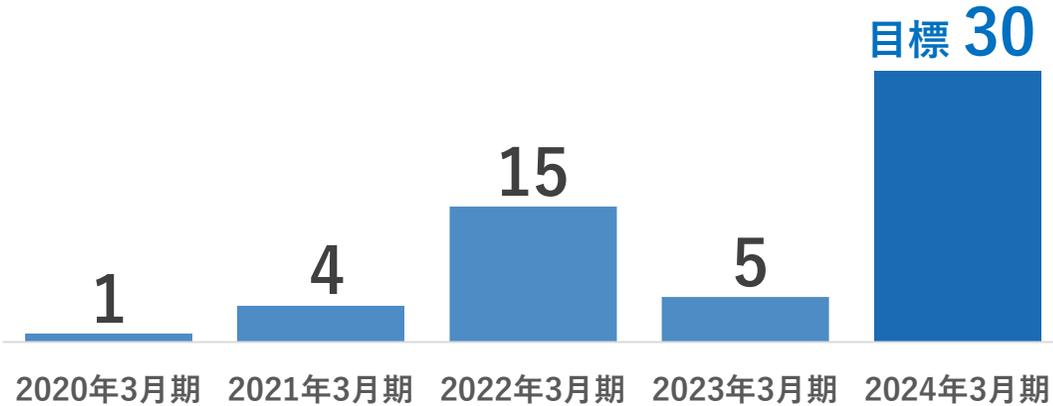
メタルロックアンカー

メタルアンダーカットアンカー、
サイズミックエコフィラー等のPRを継続
土木向け製品の安定成長を目指す



中期経営計画における重点施策（土木分野の強化）

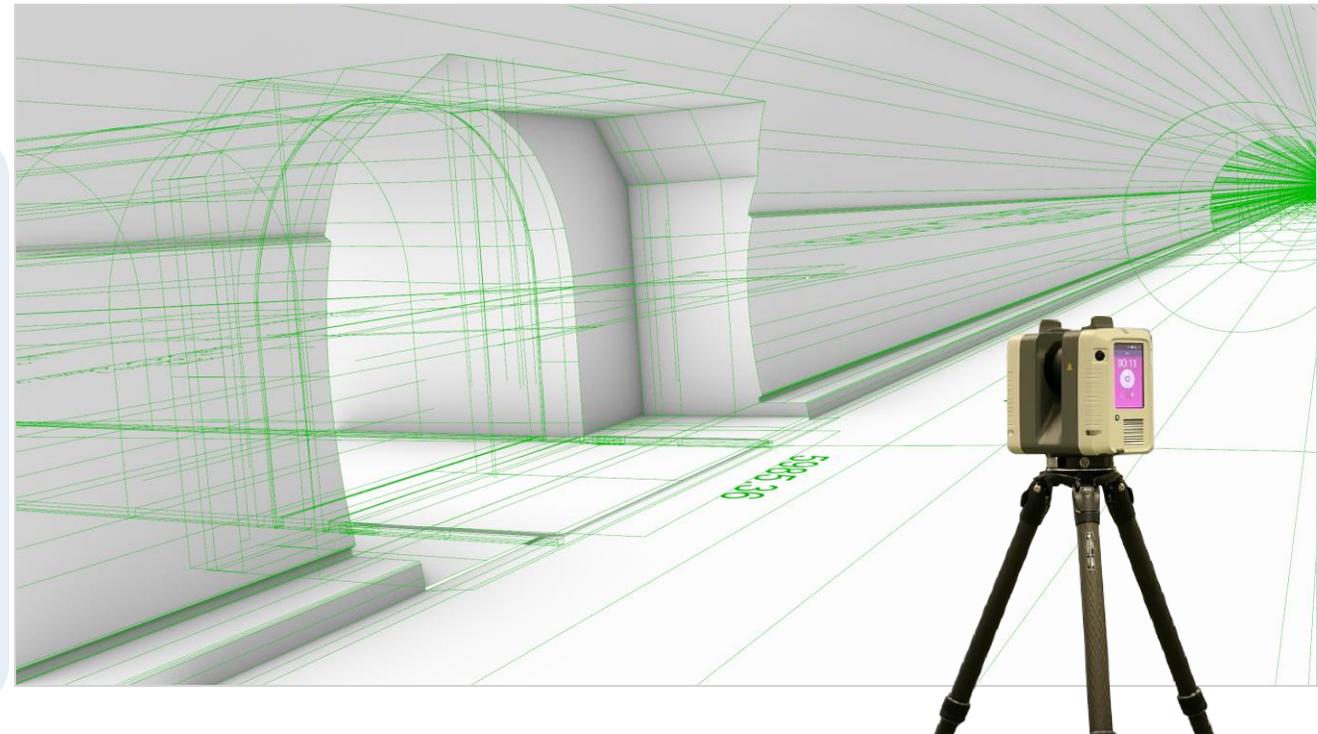
スキャンニング&モデリングサービスの依頼案件数の推移



⇒ 建設現場のDX化に伴い需要は増加しており、トンネル照明を中心にPRを継続し、目標値達成を目指す

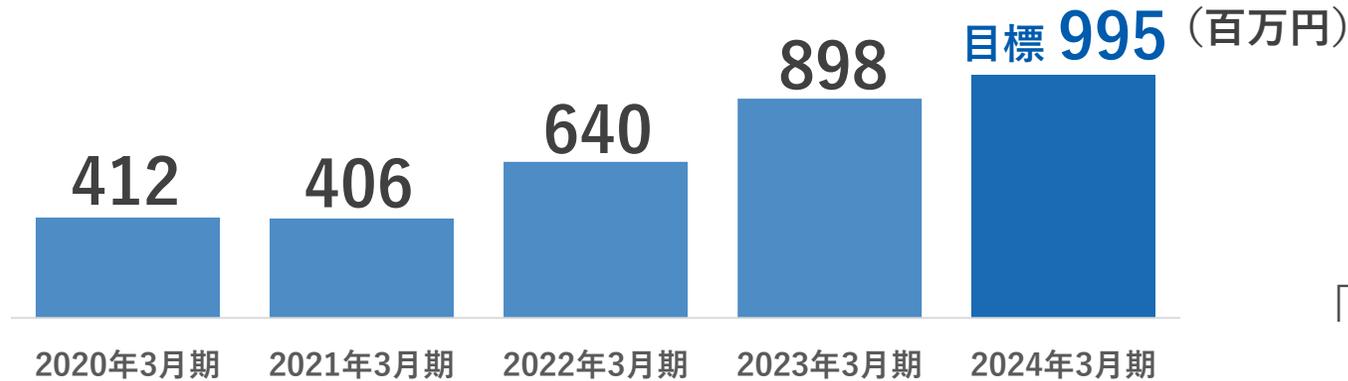


- 現場での計測作業を安全かつ短時間で実施
- スキャンニングしたデータを仮想空間としてPC内で表現



中期経営計画における重点施策（機能材事業の強化）

アルコール検知器関連の売上高推移



「アルコール測定」と「顔写真撮影」が同時に行えるALCFaceST-2000

道路交通法改正の延期について

2022年10月より施行予定であった「白ナンバー事業者におけるアルコール検知器を使用した酒気帯び有無の確認」義務化は、アルコール検知器の供給キャパシティが考慮され延期されたが、今後の義務化が想定される



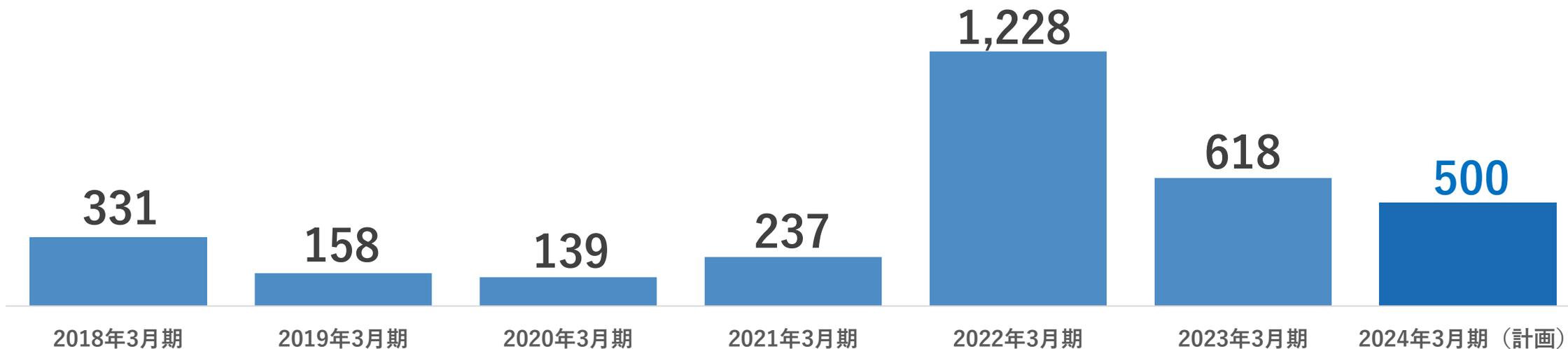
緑ナンバー事業者（トラック・バス・タクシーなど）
義務化：2011年5月～

白ナンバー事業者（安全運転管理者選任事業所）
義務化：2022年10月～ ⇒延期

2024年3月期 設備投資計画

設備投資額 (百万円)

現・中期経営計画期間 累計：2,347百万円



■2024年3月期 主な設備投資計画

- ・製造設備の追加および刷新
子会社を含めた国内外の工場における製造設備を増強することで安定性・生産性の向上を図るための設備投資を計画

定性目標 (Vision2023) の達成に
いっそう磨きをかけ、次期中計への
ステップへ。必要な投資を継続

次期中計に向けて

外部環境の認識 ~マクロ環境~

withコロナ
経済活動再開

ウクライナ侵攻
EU向け物資供給不足

地球温暖化と化石燃料
脱炭素活動の進展

グローバル

- デフレスパイラルからインフレへ
- 自然災害の甚大化
- IT・AI・DX加速によるビジネスフローの変化

日本国内

- 超高齢化社会の進行・人手不足
- 社会インフラ（構造物）の老朽化

長期事業環境の基本観は変わらないが、変化の加速を想定

■ ファスニング事業領域

- ・ 国土強靱化計画関連は、需要が継続
- ・ 都市再開発関連から大阪万博関連、地方圏へのシフト
- ・ 人手不足を背景とした省人化・IT化が促進

■ 機能材事業領域

- ・ 白ナンバーにおけるアルコール検査義務化の本格化
- ・ 運送2024年問題に伴う、包装・物流機器の需要増
- ・ プラスチックから紙への転換を始めとしたサステナビリティ経営へのシフト

- ・ オリンピック関連需要の収束
- ・ 新型コロナウイルスの影響による工事中断や遅れの発生

- ・ 都市再開発関連
- ・ 耐震補強工事を含むインフラ補修等

社会的ニーズの高まり

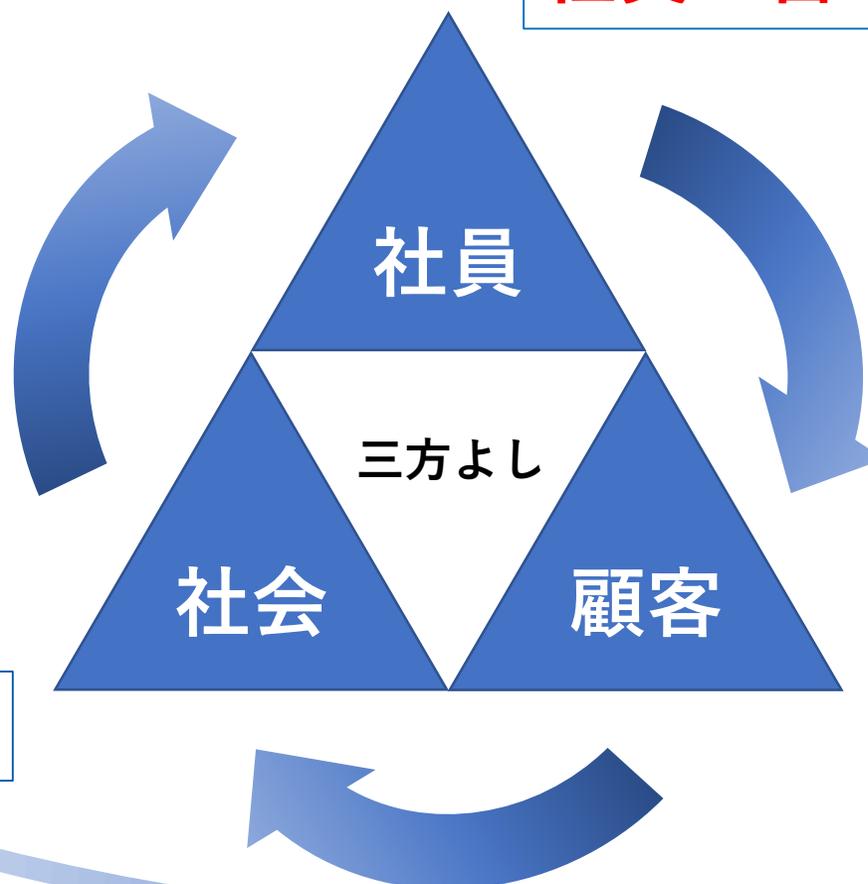
- 高度経済成長期に整備された各種インフラに幅広く、維持・保全・補修のニーズが拡大
- 建設技能労働者等の人手不足を背景とした効率化・自動化へのニーズの高まり
- 相次ぐ自然災害を背景に、強度性能・安全性に対するニーズの高まり

国土強靱化計画
関連へのシフト

必要とされる企業を目指す！ 何をすべきか？ 起点は…

ステークホルダーに
選ばれる企業へ！

社員に喜んでもらえる



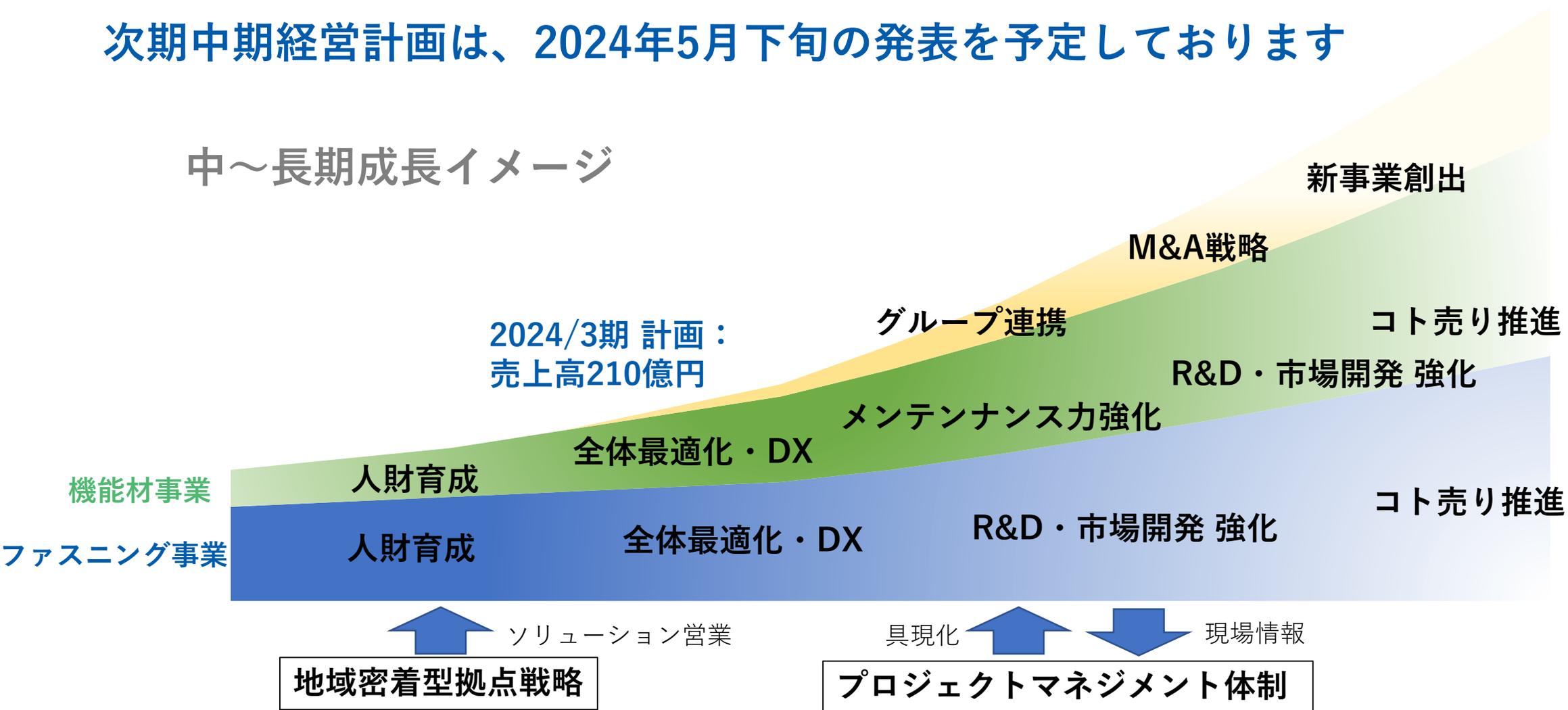
社会に選ばれる

顧客（ユーザー）
に必要とされる

次期中期経営計画の発表時期

次期中期経営計画は、2024年5月下旬の発表を予定しております

中～長期成長イメージ



ご清聴ありがとうございました



(補足資料)

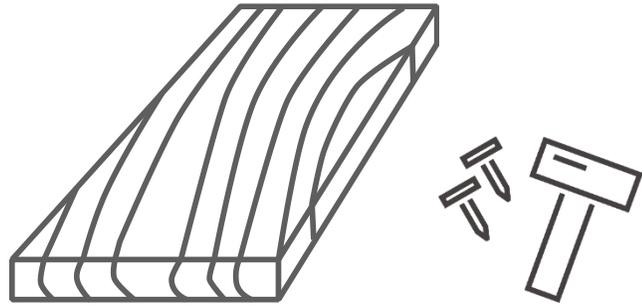
会社概要（2023年3月末現在）

社名	サンコーテクノ株式会社
設立	1964年5月15日
代表者	洞下 英人（ほらげ ひでと）
所在地	千葉県流山市南流山三丁目10番地16
社員数	連結：627名 単体：335名
資本金	768百万円
国内拠点	19拠点
連結子会社	11社（海外3社含む）
市場	東証スタンダード市場
事業内容	建設資材（あと施工アンカー・ドリルビット・ファスナー等）、 複合材、各種測定器の企画開発・製造・販売・施工および輸出入

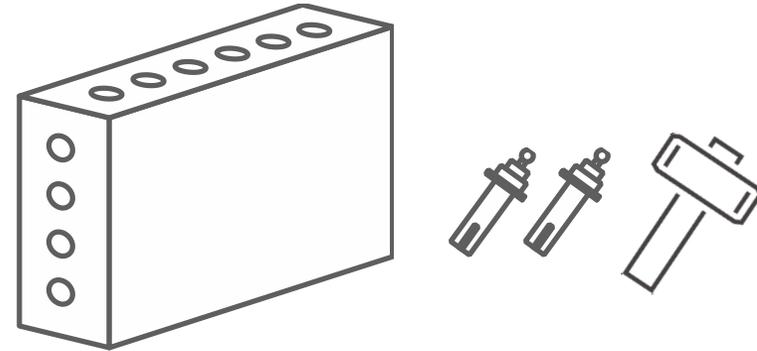


「あと施工アンカー」について

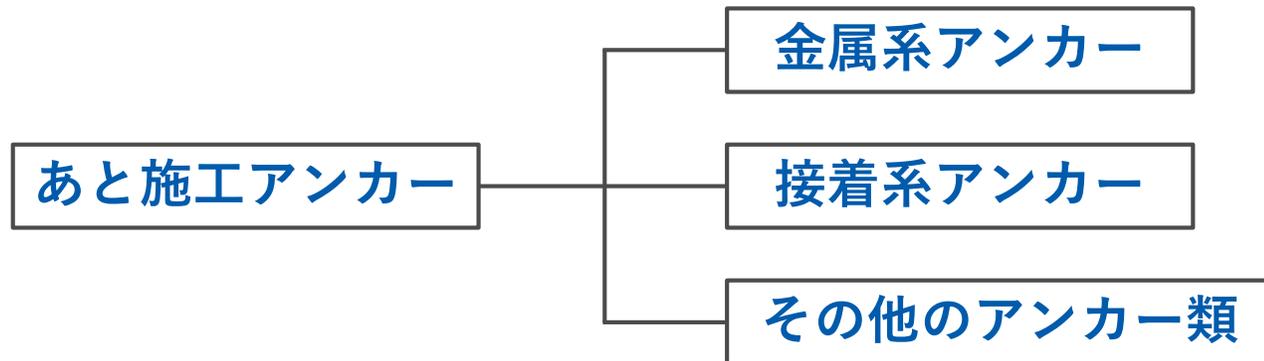
あと施工アンカーは、コンクリートなどに対して物を固定・取り付ける際に使用されます



木材などには「釘」



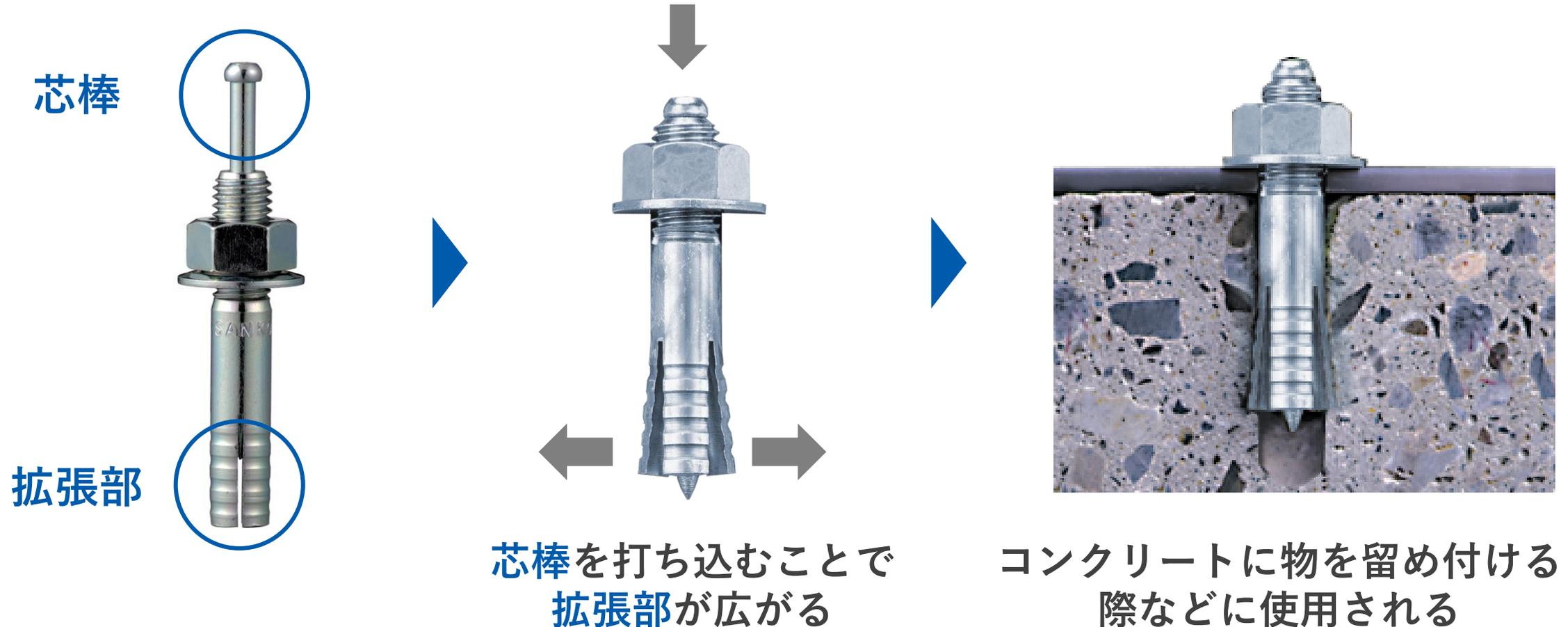
コンクリートなどには「あと施工アンカー」



あと施工アンカーには大きく分けて3つの分類がありそこからさらに21の分類に

あと施工アンカーの仕組み（芯棒打込み式の場合）

製品名：オールアンカー



こんなところにサンコーテクノ

あと施工アンカーは、身近なところで使用されています
看板や標識の取付けから配管設備の固定、ソーラーパネルの設置から耐震補強に使用されるなど
その用途はさまざまです

看板・標識の取付けに

高速道路の防音壁に



金属の屋根に



ソーラーパネルの設置に



ベンチの取付けに



自販機の固定に



手すりの取付けに

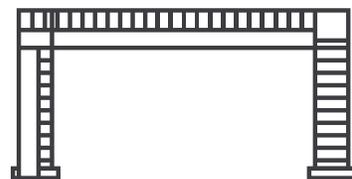


機能材事業の主要製品

建設現場で切断・穿孔・曲げる
省人化・省力化に電動油圧工具



コンクリート構造物・鋼構造物の
補修・補強にFRPシート



運転前後のアルコール測定に
呼気アルコール検知器



梱包作業の省人化・省力化に
パレットストレッチ包装機

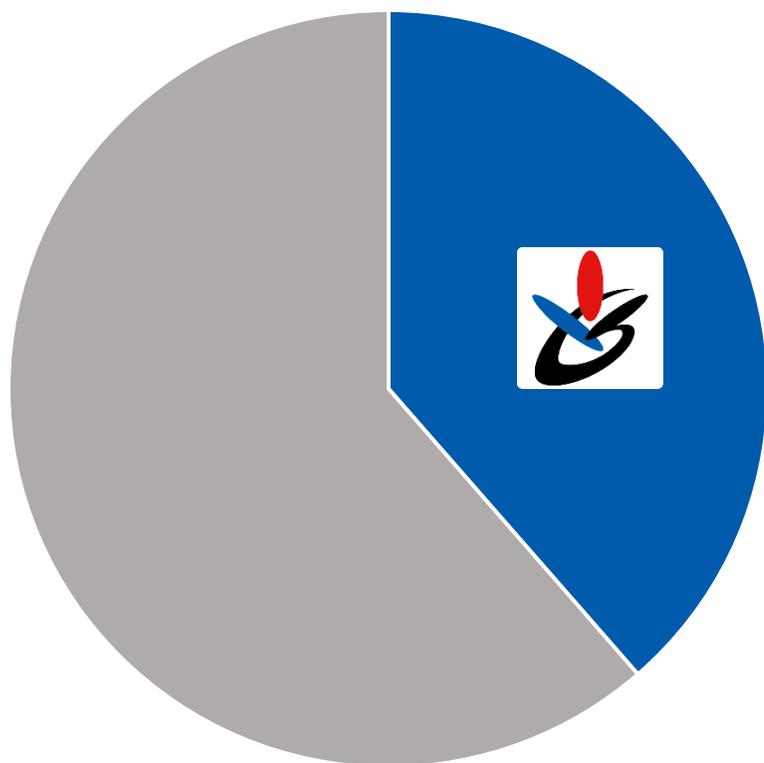


あと施工アンカー市場における高い市場シェア

あと施工アンカー生産額市場規模

18,844百万円（25社）

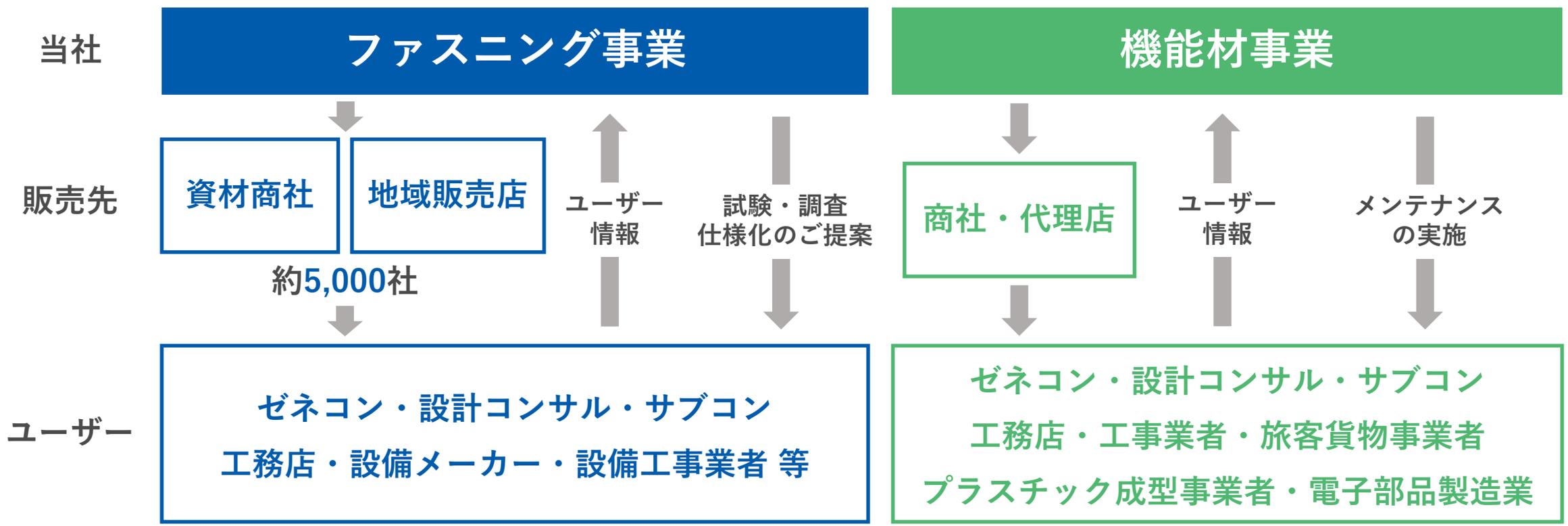
サンコーテクノ 約40% 他社（24社） 約60%



あと施工アンカー業界で
国内シェアNo.1

※JCAA 2021年「あと施工アンカー」生産実績調査結果報告書をもとに当社にて作成

当社の強み② ビジネスモデル



当社の強み③ グループネットワーク

日本国内：31拠点



全国の販売拠点では在庫も保有
全国営業・即納体制が可能に

海外：3拠点



当社の強み④ グループ内の連携

建設分野における独自の締結技術の追究 IKK / アイエスエム・インタナショナル / サンオー / 日本メカニック

海外事業の拡大 SANKO FASTEM(THAILAND)LTD. / 三幸商事顧問股份有限公司 / SANKO FASTEM(VIETNAM)LTD.

新規事業の強化・拡大 スイコー / 浦和電研 / WDS / 光洋

事業の多角化推進 成光産業 / 成光パック / イーオプティマイズ / 新光ナイロン

強みと強みを掛け合わせ新たな価値を創造



IKK
(電動油圧工具)

SFT・SFTW・SFV
(海外ネットワーク)

スイコー・浦和電研
(電子基板)

成光産業
(物流・包装機器)

▶ トータルファスニングシステムの構築

▶ アジア圏における建設資材のマーケティング

▶ アルコール検知器をはじめとした各種測定器のメンテナンスおよび電子機器の試作開発

▶ 共通顧客の開拓

当社の強み⑤ 研究・開発と製造体制

研究・開発

中・長期の開発テーマや他社との共同案件は「**技術研究所**」
短期的で迅速な対応が求められる案件は「**営業開発部**」



年間研究開発費 **約1.5億円**

(過去3年平均)



製造体制

国内には東西にそれぞれ工場を保有するほか
多数の**協力工場**とのパートナーシップをもち
独自の**ファブレス体制**を形成

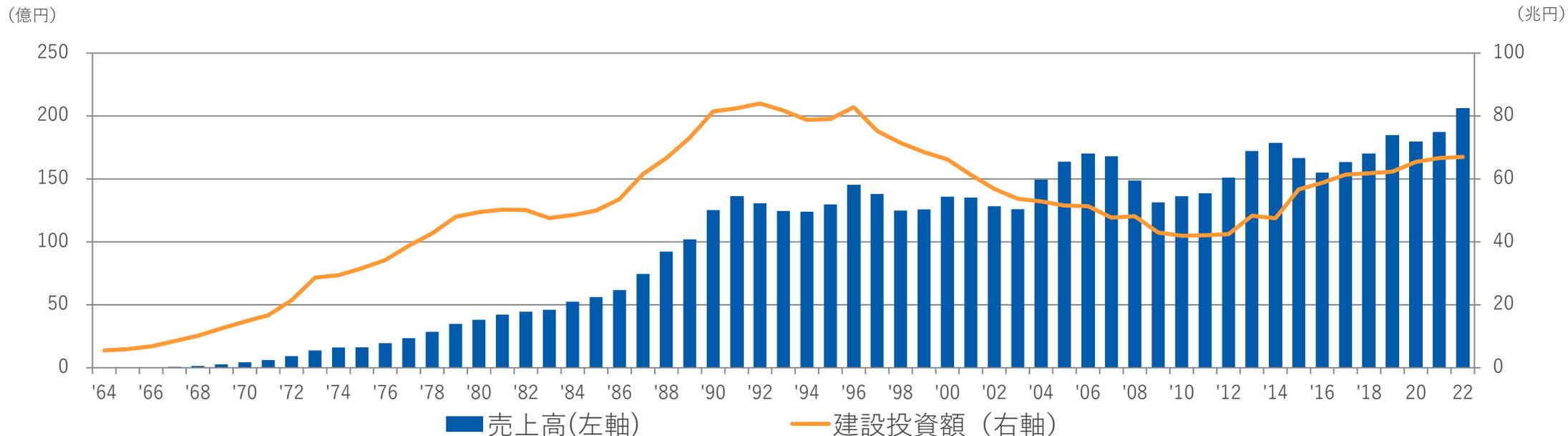
また、**海外（タイ・台湾）**にも**製造体制**を有しており
製品の製造技術や生産量に応じて生産拠点を決定している



当社成長の軌跡



- | | | |
|--|--------------------------------------|---|
| 1964年 三幸商事株式会社を設立 | 1998年 中央物流センターを開設 | 2015年 東証第二部へ市場変更 |
| 1965年 オールアンカー開発・実用新案登録 | 2002年 ものづくりテクニカルセンターを開設 | 2018年 技術研究所を創設 |
| 1966年 三幸工業株式会社を設立 | 2003年 (株) スイコーを子会社化 | 2019年 浦和電研(株)を子会社化 |
| 1988年 三幸商事顧問股份有限公司(台湾)を設立
SANKO FASTEM(THAILAND) LTD. を設立 | 2004年 (株) IKKを子会社化 | 成光産業(株)・成光パック(株)を子会社化 |
| 1993年 西部物流センターを開設 | 2005年 ジャスダック証券取引所に株式上場 | 2021年 日本メカニック(株)を子会社化 |
| 1996年 三幸商事・三幸工業の合併でサンコーテクノ誕生 | 2006年 アイエスエム・インタナショナル(株)を子会社化 | 2023年 (株) WDS・新光ナイロン(株)・
(株) 光洋を子会社化 |
| | 2011年 SANKO FASTEM(VIETNAM) LTD. を設立 | |



フェーズ1 成長への始動
国内拠点の拡充 (全国販売網の確立)

フェーズ2 転換期
製造と物流拠点の再構築
工事部門の設立

フェーズ3 持続的成長へ
産学連携の開発体制の構築
事業の多角化推進

環境負荷の低減



当社グループの一部社屋に太陽光発電システムの設置や自然環境・作業環境にやさしい製品の開発など環境に配慮した取組みを推進

安全かつ強靱な 建造物の形成



独自の締結技術を軸に経年劣化により耐久性の低下した建造物の補修や自然災害に強い街づくりを支援

女性活躍の推進



「女性活躍推進協議会」を起点に産休・育休キャリアマップやママサポート相談窓口の設置産休・育休取得の推進・支援女性管理職比率の向上を図る

紙パッケージ製造 機器の販売



グループ会社の成光産業で
プラスチック不使用の
100%紙製ブリスター包装を可能と
する機器（イリッヒ社製）を販売

地元サッカークラブ とパートナー契約



本社が所在する千葉県流山市で
初の社会人サッカークラブである
NAGAREYAMA F.C. とともに
街の地域活性化に貢献

ちばSDGsパートナー の登録企業に



千葉県が創設した
「ちばSDGsパートナー登録制度」に
パートナー企業として登録

〈地域貢献〉 千葉県流山市に熱中アラームを寄贈

2022年6月、当社で取り扱う黒球式熱中症指数計「熱中アラームTT-562ST」90台を千葉県流山市に寄贈しました。



サステナビリティに関する取組み

当社グループにおける、人材の多様性の確保を含む人材の育成に関する方針及び社内環境整備に関する方針は、サンコーテクノグループの役員および社員が遵守しているS.T.Gモラル憲章をもとに戦略を定め取り組んでおります。公表している指標は下記の通りです。

	目標	実績（当事業年度）
役職者（係長級）における女性労働者の割合	2025年3月までに10%	14.6%
平均勤続年数	2025年3月までに 男女とも15年以上	男性：15.1年 女性：10.7年

- 本資料はサンコーテクノ株式会社の事業及び業界動向についてのサンコーテクノ株式会社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、公表日現在において利用可能な情報に基づいてサンコーテクノ株式会社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。